

# 新技術活用促進(発注者指定型)の取り組みについて

## 公共工事等における新技術活用システム



新技術活用システムは、公共工事等における新技術の活用検討事務の効率化や活用リスクの軽減等を図り、**有用な新技術の積極的な活用を推進するための仕組み**であり、新技術の積極的な活用を通じた民間事業者等による**技術開発の促進、優れた技術の創出**により、**公共工事等の品質の確保、良質な社会資本の整備に寄与**することを目的とする。



## 発注者指定型と施工者希望型の割合は?(本省記者発表より)



- 上記のように「施工者希望型」の割合が増加した要因としては、国土交通省がこれまでに行ってきた、施工者による新技術の活用を促進するための下記の取り組みの効果と考えられる。
  - ① 入札契約の総合評価方式において、施工者が新技術に関する技術提案を行った場合に加点。(平成17年10月以降各地方整備局で順次運用を開始)
  - ② 施工者からの提案により、直轄工事で新技術を活用した場合に、工事成績評定で加点。(平成18年9月より運用を開始)

本質的な技術を増やしたい  
**発注者指定型** < **施工者希望型** 簡易な安全対策や仮設物等が多い

施工者希望型の活用率は高いが発注者指定型の活用率は低い

発注者が主体的に活用することにより、開発者の開発意欲を高め、本質的な技術に関する技術開発がより活性化されることを期待

→「発注者指定」で工事の品質や生産性にかかる新技術の活用件数を促進し、評価件数を増やしていく必要がある

## 中部地方整備局独自の取組

- 1)単に「活用率」でなく「どのように活用するか」という視点
- 2)発注者による最適な工法や技術の選定
- 3)新技術活用促進(I)型の拡大
- 4)(目標)発注者指定型+活用促進(I)型の件数が工事発注件数の20%

職員に新技術活用促進施策を定着していく取り組み  
(適切な新技術活用)

活用率向上の取り組み  
(短期で活用率向上を目指す)

# 新技術活用促進(発注者指定型)の取り組みについて

## 中部地方整備局独自の取組(一例)

観点	項目	内容	フォローアップ	観点	具体項目	内容	フォローアップ
職員に定着させていく取り組み	新技術講習会の実施	県単位で新技術の制度の他、NETIS操作の実演を行う。	アンケートを実施し、有効性や改良点の確認を行い、次年度の計画に反映する。	活用率を向上させる取り組み (活用促進 I 型+発注者指定型)	活用促進 I 型の推進 (本局、技術事務所の取組)	本局技術管理課、道路・河川各工事課と調整し、活用促進 I 型推進の事務連絡を発出。	設定されるテーマ、実施件数を確認し、次年度以降のテーマ設定や、テーマ毎の技術群を更新する。
	設計業務における技術比較の徹底(業務実施段階、及び、成果品の検査段階)	設計業務での比較結果、技術選定理由の収集をする。			活用促進 I 型で設定されるテーマ毎に技術群を一覧にして共有。		
	テーマ毎の新技術一覧の活用	工種ごとにまとめた新技術一覧の使い方等を周知。	使われ方を確認し、継続的にメンテナンスを行うか検討する。		各事務所ごとの目標設定	各事務所で、昨年度の実情をふまえた目標設定を行う。	定期的に事務所毎の活用率を共有し、目標の達成度を確認する。
	イントラへの情報掲載	発注者指定型で技術指定した理由をデータベース化し共有。	各年度で好事例をさらに抽出し共有する。		新技術活用促進の体制構築	技術管理課、道路・河川各工事課、技術事務所と定期的な打ち合わせを行う。 (新技術連絡会)	各取り組みの進捗情報を共有し、年度末には次年度の計画案を作成する。
					技術事務所に発注事務所からの相談窓口を設置する。 (技術相談窓口)	相談件数、結果等をとりまとめ、次年度以降の参考とする。	

## 新技術の活用について

国土交通省  
中部地方整備局

## 新技術講習会

新技術の活用について

- ①なぜ新技術を活用するの?
- ②なぜ発注者指定型新技術を促進するの?
- ③新技術活用システムの仕組み
- ④気を付けてほしいこと
- ⑤発注者指定型活用を促進する
- ⑥NETISの検索方法や比較表

新技術活用の目的 直轄工事の品質の確保、生産性の向上

ねらい 公共事業のイノベーションの推進

→民間分野の新技術の開発と実現化(技術選定)を加速させ、

新技術の活用について

技術の効果的な活用

②なぜ発注者指定型新技術を活用に取り組む?

発注者指定型新技術活用の目的

ねらい 建設産業の活性化

建設産業の活性化

NETISの活用効果調査評価件数を増やし、個々の新技術を効果の高いものとすることは、開発者の開発意欲向上にもつながり技術開発が活性化

背景 建設産業は、国土と同時に、地

建設産業の現状と課題

建設産業は、これまでの技術革新や技術の進歩の現状の状況を看過した場合

技術革新の不足が懸念され、将

技術革新等に支障が生じるおそ

## 新技術の活用について

③新技術活用システムの仕組みは?

公共工事等における新技術活用システムとは?

新技術の開発・改良

新技術活用システム

新技術の活用について

新技術活用システム

新